

| | | | |
|--|---------------------------------|------|--------------|
| 科目名 | 「放送メディア教育特論」 メディアを学び、メディアを使う | 担当教員 | 岡元 隆治 |
| 科目属性 | 専門科目群E | 単位数 | 2単位(面接0.5単位) |
| <p>【授業概要】</p> <p>この講座では、様々なメディアの特性を理解した後、テレビを中心にした放送マスメディアについて学びます。メディアは便利なツールであると同時に、様々なトラブルの種にもなります。</p> <p>青少年がメディアを過信するのも問題ですが、メディアに無知な大人達の存在のほうがより大きな問題です。生徒ではなく、先生のメディア能力を向上させるのが、この講座のテーマとも言えます。</p> <p>今回は、メディア対応の観点から「広報と危機管理」にも焦点を当てます。マスメディアに対する「読解力」、「正しい付き合い方」、「有効な利用法」などについて学んでいきます。</p> <p>講師は、テレビ局の記者・特派員・幹部として長年取材活動を行い、放送ジャーナリズムに精通しています。視聴率やコマーシャルなど、テレビの基礎知識も説明しながら、マスメディアとジャーナリズムの世界を解き明かしていきます。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マスメディアについて、体系的に理解をする。 2. 放送メディアの基礎知識を取得し、その特性を理解する。 3. メディア・リテラシー能力を高めて、リテラシー教育をする能力をつける。 4. メディア対応の基礎を学び、危機管理能力を高める。 | | | |
| <p>【授業計画】</p> <p>担当教員が本講座用に作成したテキスト「放送メディアとリテラシー」並びに、参考図書「メディアと日本人」に沿った内容で、スクーリングを実施します。また、この場で、レポート作成についての指導も行います。</p> <p>レポート(3000字程度)は、メディアやジャーナリズムの関係するテーマなら自由ですが、スクーリング後、2週間程度で提出してもらいます。</p> <p>その後の、科目習得試験は、テキストや参考図書に沿った設問への解答(300字程度)が数問と、与えられたテーマに沿った小論文(1500字程度)を組み合わせます。</p> <p>そのうえで、下記のような割合で評価を行います。</p> | | | |
| <p>【評価方法】</p> <p>評価は、スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、「科目修得試験」(50%)の割合で行います。</p> | | | |
| <p>【教科書】</p> <p>「放送メディアとリテラシー教育」(受講者にはメールにて配布)</p> <p>「メディアと日本人」岩波新書 ISBN978-4-00-431298-7</p> | | | |
| <p>【参考図書】</p> <p>「日本のいちばん長い日」文春文庫 ISBN978416748315</p> <p>「テレビ視聴の50年」NHK出版 ISBN4-14-007213-X</p> | | | |